

— 支部長就任挨拶 —

J S C A中部支部長 橋村 一彦

皆様におかれましては、相変わらずお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。本年6月より更に1期支部長を勤めさせていただき事になりました。支部活動への参加・協力の程今までにも増して宜しくお願い致します。



さて、6月1日には、建築物の安全性と市街地の防災機能確保を図る為の建築基準法の一部を改正する法律の施行となり、会員各位におかれましては即刻日常業務の中での解釈・対応に腐心されていると思います。確認審査機関の指導が、基準法の改正を1年前に言われた主旨に基づくものであって欲しいものです。

この法律施行間もない頃、名古屋市からの指導に関する1つだけの情報を、事務局から支部会員各位に配信したところ大きな関心があり、これからも日常業務に直接関連する情報発信は大切だと感じた次第です。

年初の地震によるガラスの落下・飛散問題、或いは中心市街地での傾斜した外壁のタイル落下問題他、各種の安全を脅かす事故が、出現する部位を変えながらもいつまでも続きます。旧基準下の建物の耐震性に関する事項もこれまで同様大きな問題点としてあります。会員各位は、日常業務においては支部総会でも話しませんが、激しい提案競争・価格競争の中におかれてみえるやに思います。

この状況下、支部活動は、次の2点を絶えず留意した中で進めたいと思います。

- 1) 各種技術情報の各位への発信とさまざまな機会での技術情報吸収が出来ること。

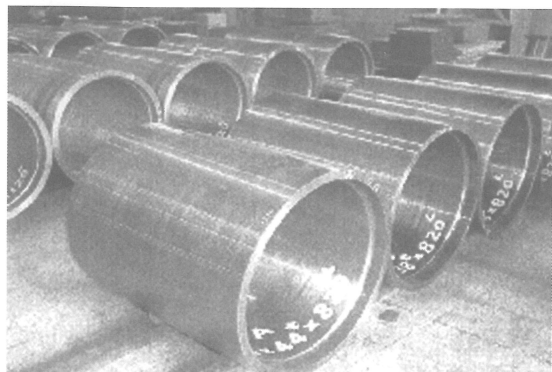
- 2) 建築構造技術者集団として外に向かって何をしなければならぬか考えた行動をとること。

もちろん、日常業務を通して世の中の為にと行動されてはいるのですが、社外に於ける個人団体としての何かです。

これを念頭に、各委員会による活動他各企画が楽しい雰囲気の中で動いていけばと思います。考えてみますと、活動の念頭にと挙げました事項は、日本建築構造技術者協会定款の(目的)(事業)に述べられている事でもあります。当会、発足時の理念を時々思い出してみることが大切だと思います。

最近、雑誌他でいろいろな分野での品質問題、技術者の倫理に関することをよく目します。それらの中には、普通に考えれば‘なんでそんなことに’と思われることが多く有るのではないのでしょうか。基本的な事柄・やらなければならない事をちゃんとやり遂げる事が大切になります。併せてJ S C Aであれば、先ずは建築構造かと思いますが、意匠、設備、建設、世の中と目を広げ、広く自分のアンテナを張り巡らすことが重要でしょう。今の世の中、相田みつをの‘うつくしいものを美しいと思えるあなたの心が美しい’のところで日常活動にあたればと思うこのごろです。

支部活動へのご協力・ご参加を重ねてお願い致しますと共に、いろいろなご意見をいただく事を併せてお願い致します。



S N コ ラ ム

建築構造用遠心力鋳鋼管

50 キロ級 (材質 SCN 490 B-CF 及び SCN 490 C-CF)

大臣認定品 認定番号: MSTL-0124



新日本工機株式会社

本

社/〒541-0057 大阪市中央区北久宝2丁目4番1号 山口興産ビル

TEL (06) 6261-3131 (代)

FAX (06) 6264-1608

SNK http://www.snkc.co.jp/

中部国際空港(セントレア)管制塔の設計

安井建築設計事務所 大阪事務所構造部 築谷 朋也
東京事務所構造部 田中 智

1. はじめに

中部国際空港は、2005日本国際博覧会(愛・地球博)開催に合わせ、愛知県常滑沖の海上空港として、平成17年2月に開港した。中部国際空港は、成田・関空に次ぐ3番目の本格的な国際空港として重要な位置づけとなっている。海上空港としては、長崎、関空に次いで3番目であり、沖合2～3kmという比較的陸地から近い位置に人工島として建設された。

2. 建物概要

建物外観写真を図1に示す。

建築場所: 愛知県常滑市(中部国際空港内)

敷地面積: 11,730m²

建築面積: 231.27m²

延床面積: 664.54m²

階 段: 地上5階

建物高さ: 86.75m

用 途: 航空管制塔

塔体部分の平面形状は円形で、見付幅は10.8m、高さ方向のアスペクト比は8.03の塔状建物である。

3. 構造設概要

3.1 構造概要

構造概要を図2に示す。

【構造概要】

架構形式: トラスチューブ架構(管制室はラーメン架構)

上部構造: 鉄骨造

基礎構造: 鉄骨鉄筋コンクリート造

地 業: 打撃工法による鋼管杭

支 持 層: GL-16m付近の固結シルト層(N値 60)

【構造設計上の主なポイント】

- ① 特殊な立地条件(埋立地)での耐震性の確保
- ② 特殊な建物形状(平面が円形、立面形状が細長い)での耐震性・耐風性の確保
- ③ 日常風に対する居住性の確保

塔状建物であるため、建物崩壊メカニズムは塔体足元からの転倒モードとなる。この上部鉄骨からの応力を基礎外縁の杭にスムーズに伝達することと基礎の過密配筋を避ける目的で、基礎梁を鉄骨鉄筋コンクリート造としている。地震時転倒モーメントに対する基礎の浮き上がりは、RC基礎とSRC基礎梁の自重、鋼管杭の摩擦抵抗力の2つにより抵抗している。

柱は極厚(最大板厚110mm)の遠心力鋳鋼管を用い、転倒モーメントに対する建物の曲げ剛性を高めた。また構面内のせん断剛性を確保するためにトラスチューブ架構を採用している。柱・梁接合部およびブレース取り付け部は水平スチフナを用いず、鋼管の厚みを増すことによるシンプルな構成とした。



図1 中部国際空港庁舎・管制塔
(<http://www.centrair.jp/>より)

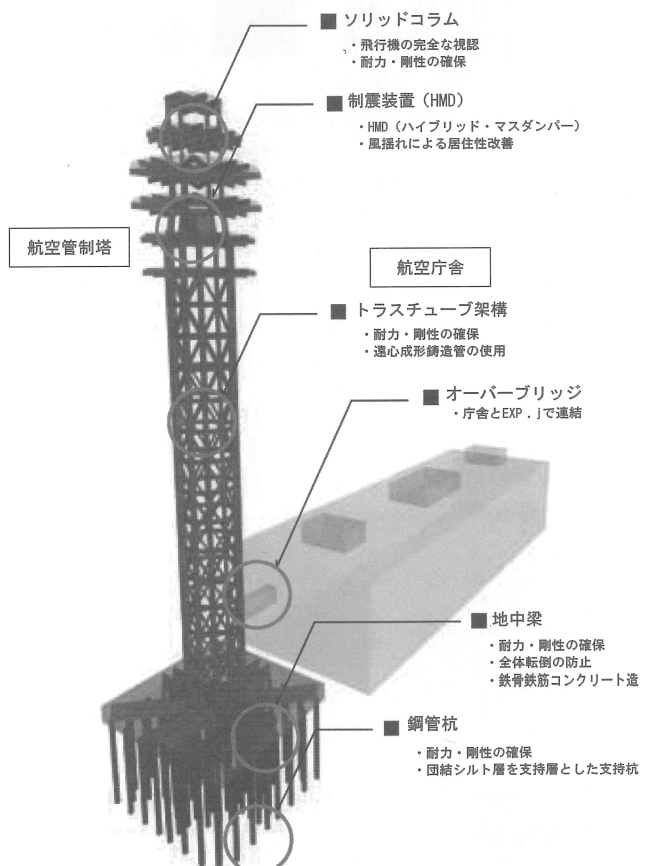
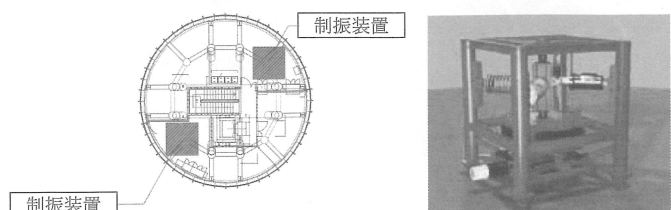


図2 構造概要



(a) 制振装置配置図

(b) 制振装置外見

図3 ハイブリッドマスダンパー (HMD)

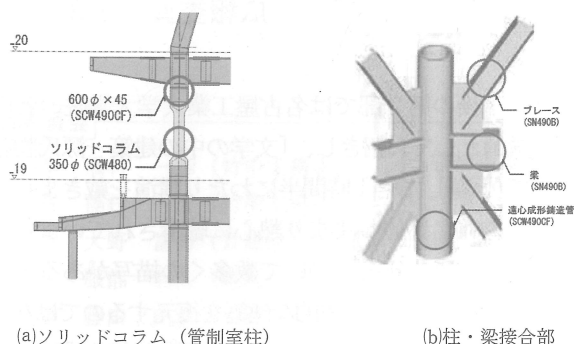


図4 各部詳細
表1 設計クライテリア(耐震設計)

地震動	稀に発生する地震動	極めて稀に発生する地震動
観測波	EL-CENTRO NS, TAFT, HACHINOHE NS	
告示板	BC-1, BC-2, BC-3	
設計目標	層間変形角 1/200 以下 部材は弾性	層間変形角 1/100 以下 部材は弾性

表2 設計クライテリア(耐風設計)
(風圧力の算定方法は荷重指針による)

風圧力	稀に発生する風圧力	極めて稀に発生する風圧力
再現期間	100年	500年
粗度区分	I	
設計風速	55.1 m/s	63.9 m/s
設計目標	層間変形角 1/400 以下 部材は弾性	層間変形角 1/200 以下 部材は弾性

表3 設計クライテリア(水平微振動に対する居住性)

風圧力	日常風
再現期間	1年
粗度区分	I
設計風速	24 m/s (管制室)
設計目標	応答加速度 5cm/s ² 以下

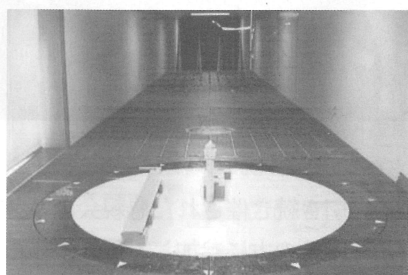


図5 風洞実験(株式会社風工学研究所より)

建物頂部にある管制室の柱は、航空機の視認性を確保するために極力細くする必要がある。ここでは管制官の視界に影響する範囲だけを細くした無垢350φのソリッドコラム(鋳鋼品)を採用した。

海上空港における高層塔状建物では風揺れによる振動障害の懸念があるため、居住性改善の目的で管制室の下にハイブリッドタイプの制振装置(HMD)を設置した。この装置の振動体(マス)は、地震時の大きな揺れに対してロック機構を有している。

① 建物の緒元

建物の1次固有周期は1.35秒、建物重量は有効質量で約15,000kNである。HMDの設置台数は2基、振動体重量は50kN/基、許容振幅は±30cmである。

② 耐震設計

埋立地盤の特性を考慮した模擬地震波により、時刻歴応答解析を行っている。応答結果において、純ラーメン架構となる管制室の層間変形角が最大となる。「極めて稀に発生する地震動」において基礎固定の解析モデルで1/104、杭・地盤を考慮したペンツェンモデルで1/108となる。どちらの解析モデルにおいても、全体曲げ変形成分がせん断変形より圧倒的に卓越している。

③ 耐風設計

建物がスレンダーであることや、平面が円形であることから、風洞実験によって渦励振や空力不安定振動の発生可能性などを十分に検討して設計用の風圧力を決定した。風洞実験は、(a)風圧実験、(b)風力実験、(c)振動実験を行い、得られた結果に基づき、周波数領域でのモーダル解析を行った。最大層間変形角は「極めて稀に発生する風圧力」において1/325となり、地震時を上回ることはない。

④ 水平微振動に対する居住性

風洞実験によって風圧力を決定し、HMDを配置した状態で時刻歴応答解析を行った。建物に作用する水平応答加速度は4.23cm/s²であった。非制振の場合に比べて応答加速度を約40%まで低減し、居住性を効果的に改善した。制振装置に関する効果は、竣工後の実風においても確認している。

⑤ その他部材の設計

図4に示すソリッドコラムおよび柱・梁接合部では、部材形状が特殊であることから、有限要素解析により応力集中や局部座屈などの検討を行い、安全性を確認している。

4. おわりに

本工事は、平成14年2月に着工し、平成15年10月に竣工した。約1年半の慣熟期間を経て、平成17年2月に中部国際空港が開港し、管制塔の供用が始まっている。

最後に管制塔の設計に際して、ご指導とご理解をいただいた国土交通省大阪航空局ならびに社内外の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

中部支部2005年 通常総会報告

広報委員 土田 崇仁



総会風景

2005年度中部支部通常総会が5月24日(火)、名古屋市東区のメルパルクにて開催され、出席会員46名・委任状226名の計272名により本総会は成立しました。審議に先立ち議長に(有)那由多デザインオフィスの多田昌司氏を選出し、下記議案を審議いたしました。

- 議案1：2004年度支部事業報告の件
- 議案2：2004年度支部収支決算の件
- 議案3：2005年度支部役員等の選出の件
- 議案4：2005年度支部事業計画の件
- 議案5：2005年度支部収出予算の件

各議案とも慎重審議の結果、満場一致で承認されました。本年度支部事業計画の議案4に関しては、橋村支部長より主旨説明がありましたので、総会に出席されなかった会員諸氏にその骨子をご報告いたします。

1. 社会に対して何が出来るか、何をしなくてはならないかを考えた活動

- (1)耐震診断・耐震補強検討の対応
- (2)災害防止の観点から重要な事項である、非構造部材・2次部材に対する対応
- (3)一般の方々に対する構造的説明の仕方

2. 技術情報の発言・吸収

- (1)ホームページの充実による会員各位への広報・周知
- (2)構造の枠を離れた関連団体との交流

また、次年度に企画されている“構造展”への準備や、5月23日に発足した“愛知県地震災害軽減システム研究会”への参画についても報告がありました。

総会終了後の第2部では名古屋工業大学大学院の若山滋教授を講師としてお招きし、「文学の中の建築—源氏物語を例にして」と題して約1時間半にわたり講演を戴きました。講演には約90名の方が集まり熱心に聴講されていました。源氏物語には庭や建築について数多くの描写があるようですが、先生はそこから歴史的な建築を復元するのではなく、文学中の記述から、その時代の人が建築をどう感じ、建築とどう関わってきたかを研究されてきたとのことでした。研究当初は、工学的ではないとの反論も多かったそうです。文学中の表現の紹介や絵巻物のスライドを見せていただきながら、廂、戸、屏風、几帳など柔らかで情緒豊かな隔てを中心に、平安時代の貴族の生活や寝殿造についての貴重なお話を聞かせていただきました。また、先生が設計された代表的な建築作品についての紹介がありましたが、中でも山中湖畔の傾斜地に建つ富士の見える別荘が印象的でした。



懇親会風景

記念講演の後、引き続き催された懇親会には、来賓、正会員、賛助会員等多くの方に参加して頂きました。大野副支部長の挨拶、ご来賓方々のご祝辞の後、本日記念講演を賜りました若山先生のご発声で乾杯し、和やかなうちに閉会となりました。

最後に、本総会の開催にあたり多大なご尽力をいただいた事業委員会各位にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

中部支部平成17年度組織構成

支部役員会

本会理事 橋村 一彦 (竹中工務店)
 支部長 橋村 一彦 (竹中工務店)
 副支部長 大野 富男 (日建設計)
 服部 明人 (鹿島)
 総括幹事 藤田 良能 (三菱商事)
 支部幹事 安藤 誠 (ANDO構造設計)
 石井 和彦 (日総建)
 大島 基夫 (大成建設)
 小田 一之 (オーディーエー)
 櫻川 幸夫 (ASA・アーサ設計)
 澤木 俊治 (澤木設計事務所)
 末吉 直樹 (大林組)
 高藤 勝己 (大建設計)
 山崎 俊一 (清水建設)
 支部監査 伊東 正 (竹中工務店)
 野田 泰正 (野田建築事務所)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)

技術委員会

委員長 高藤 勝己 (大建設計)
 副委員長 内本 英雄 (清水建設)
 委員 小阪 淳也 (日建設計)
 事務局 小川 浩信 (伊藤建築設計事務所)

計画部会

主 査 鈴村 尚之 (青島設計)

鉄鋼系部会

主 査 山崎 暢 (清水建設)

コンクリート系部会

主 査 牧野 章文 (竹中工務店)

地盤系部会

主 査 高木 晃二 (大林組)

木質系部会

主 査 池崎 松蔵 (池崎建築事務所)

行政耐震委員会

委員長 石井 和彦 (日総建)
 副委員長 後藤 匡 (竹中工務店)
 同 上 三輪 隆治 (清水建設)
 委員 野田 泰正 (野田建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 近藤 雅子 (鴻池組)
 三城 繁伸 (三城設計)
 柴田 緑 (日本設計)
 中田 明良 (空間構造設計室)
 孕石 好治 (キープ構造計画事務所)
 森 隆寿 (飯嶋建築事務所)

技術交流委員会

会 長 前原 勝明 (旭化成建材)
 副 会 長 今井 信洋 (フジモリ産業)
 同 上 早藤 正勝 (中央鉄骨)

事業委員会

委員長 末吉 直樹 (大林組)
 副委員長 伊東 正 (竹中工務店)
 委員 池尾 昭浩 (池尾設計事務所)
 大野 勝由 (野口建築事務所)
 川端 憲敏 (建物蔵部)
 斎藤 正 (三菱地所設計)
 鈴木 勉 (石本建築事務所)
 森 隆寿 (飯島建築事務所)
 山崎 暢 (清水建設)
 山本 享明 (名古屋女子大学)
 吉田 純子 (大同コンクリート)

WG21

主 査 影山 裕記 (影山建築設計事務所)
 事務局 川端 憲敏 (建物蔵部)

広報委員会

委員長 山崎 俊一 (清水建設)
 副委員長 土田 崇仁 (伊藤建築設計事務所)
 委員 小阪 淳也 (日建設計)

ホームページWG

主 査 内本 英雄 (清水建設)

北陸部会

部 会 長 櫻川 幸夫 (ASA・アーサ設計)

静岡部会

部 会 長 澤木 俊治 (澤木設計事務所)

岐阜部会

部 会 長 多田 昌司 (那由多デザインオフィス)

三重部会

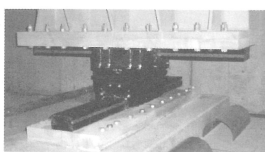
部 会 長 門脇 哲也 (仁設計室)

免震・制震装置の総合専門メーカー 免制震デバイス (ADC)

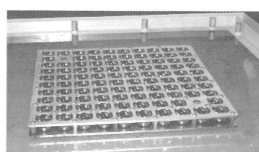
私達は、新しい時代の要求に応える高性能で多様な免震・制震装置を開発・製造しています。



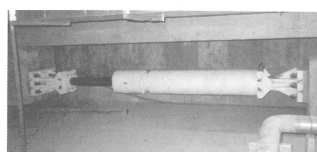
積層ゴム LRI・NRI



直動転がり支承 CLB



球体転がり支承 SBB



増幅機構付き減衰装置 RDT



粘性制震壁 VDW



- ◆免震◆ 最大径 1500mm の鉛プラグ入り積層ゴム LRI、引抜力にも有効な CLB、超低摩擦の SBB など、様々な設計条件に対応します。
- ◆制震◆ 小型で強力・耐震改修から免震ダンパーの用途まで使用可能な RDT、任意の形状が可能でメンテ不要の VDW などがあります。

株式会社 免制震デバイス
Aseismic Devices Co., Ltd.

〒164-0011 東京都中野区中央 1-38-1 住友中野坂上ビル 15 階
Tel .03-3367-9081 Fax .03-3367-9085 URL .http://www.adc21.co.jp

技術委員会 今年度の活動方針

技術委員長 高藤 勝己

前年度に引き続き今年度も技術委員長を務めさせていただきます高藤でございます。この2年間、何もわからないまま大役を引き受け、皆さんに満足していただける活動が出来たかどうかは疑問が残るところではありますが、この2年間の反省と経験を活かし、より充実した活動を目指し、さらに2年間務めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

2004年は「災」で表されるように記録的な台風上陸による風水害、新潟県中越地震、海外でもスマトラ沖地震など自然災害に見舞われた1年でした。東海地震、東南海地震、南海地震もいつ発生してもおかしくない状況になってきておりますが、そのような自然災害に備えるためにも、また2003年におきた「朱鷺メッセ落橋事故」のような事故をおこさないためにも、われわれ構造技術者の社会的使命がますます大きくなってきています。

そのような時代背景を踏まえ、JSCA中部支部技術委員会としては、前年度までと同様「構造技術者としての技術の研鑽」をメインテーマとし、

1. 講習会・見学会の実施
2. 学会会員との交流
3. 建築行政関係者との交流
4. JSCA活動のPR

を活動の基本方針として、計画系、鉄鋼系、コンクリート系、地盤系、木質系の各部会活動との連携を計りながら、JSCA会員の皆さんのみならず構造技術者の方全般に、構造技術の研鑽、習得の場を提供していきたいと思えます。1.の「講習会・見学会の実施」につきましては、昨年度発足しました技術交流会の協力をいただきながら、交流会会員及び賛助会員企業の最新技術・最新材料についての勉強会も開催し、建築構造に携わる方の技術力向上にお役にたきたいと考えております。また、皆さんの日頃の業務の発表の場として「設計事例紹介」、学会会員との交流の場として「JSCA塾」の開催を企画していく予定です。4.の「JSCA活動のPR」につきましては、「構造技術展」の来年度開催を目指し、早々にワーキンググループを立ち上げるようになっておりますが、その活動を技術委員会全体でバックアップしていきたいと考えています。

技術委員会では、会員皆さんの気軽な参加の場として、計画系、鉄鋼系、コンクリート系、地盤系、木質系の各部会が定期的な勉強会を企画しており、会員はもとより構造技術者の方の積極的な参加を呼びかけております。またそのような活動の予定や報告をホームページに掲載することにより広くその活動内容をPRしていく予定ですので、皆さんの活動への参加をお待ちしております。そして、皆さんからのJSCAの活動や委員会活動へのアドバイスをいただきながら、皆さんと一緒にJSCAの活動を盛り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

事業委員会 今年度の活動方針

事業委員長 末吉 直樹

事業委員会の平成17年度活動方針及び活動内容については、本年度支部事業計画の2大テーマを中心に据え、以下の活動を予定しております。

- (1) “社会に対して何が出来るか、何をしなくてはならないかを考えた活動”に対して
 - 1) 安全で良質な建築ストック創出に応じた活動
 - ・新しい建築構造技術の紹介
 - ・最近の耐震補強技術の講習会や実例見学会
 - 2) 建築主との建築構造耐震設計に関する説明方法提案の動向
- (2) “技術情報の発信・吸収”に対して
 - 1) (1)も含めた各種講演会、講習会
 - 2) 建築構造材料メーカーの工場や建築現場の見学会
- (3) 賛助会員の技術交流会への入会推進、WG21活動支援
- (4) その他、適宜状況に応じた活動

我々を取り巻く社会生活環境は絶えず変動し続けている。建築構造分野も例外で無く、ここ何年かの動きとして、
a. 法規制面での阪神・淡路大震災の「耐震改修促進法」や「限界耐力計算法」の出現
b. 耐震技術面での免震・制振(震)技術の進化と普及や耐震補強技術の多様化
c. 鉄骨造分野での柱・梁接合部の溶接部ディテールの工夫、柱脚設計の明確化・合理化及SN材等の新しい建築構造材料の使用
d. 非構造部材に対する補強技術開発の動き
e. 高度化した電算技術により、様々な構造解析が図化を伴って短時間で処理される
f. 建物の耐震性能と安全性に関しての建築基準法の考えを一般社会に認識させる努力や性能設計として建築主との合意形成や確認作業方法提案の動き
g. 設計性能の施工性能への造り込みを確実にして行くための中間検査制度の導入や工事監理作業の重点化などが主だった事項として有ります。

事業委員会としては、このような環境の中で、構造技術者が構造設計、工事監理業務を的確な技術や判断で遂行して行ける様、継続的な職能向上に有用な情報提供を上記予定に沿って進めて参りたいと思います。そして、より良質で地震に対して安全な建築物の設計作業・監理を目指されることを期待します。

当委員会は11名のメンバーで構成されています。自由な意見交換から効果的な企画を打ち出していけば良いなと思ってます。また、新年互礼会や総会時の記念講演会に当たっては建築構造の枠から少し離れた分野のテーマも選択肢の一つとして検討していく予定です。

行政耐震委員会 今年度の活動方針

行政耐震委員長 石井 和彦

行政耐震委員会の石井です。引き続き委員会を仰せつかりました。皆様方、日頃の業務で「耐震」という言葉にはいささか食傷気味でしょうが、900字ほどお付き合いください。

行政耐震委員会という名前ですから、文字通り行政対応と耐震関係の2つが活動の柱となっています。このうち行政対応は過去の経緯もあり、確認申請などでの設計者と審査課の意見の不一致や見解の相違といった技術的問題の交通整理役を務めてきました。かつては設計者にとってこの問題は死活問題に近く、かなりシリアスな話題でした。しかし最近では、地域によっては特定行政庁に確認申請を出す件数が激減し、絶滅危惧種の指定を待つばかり、とも聞いています。このため、近頃は会員の方々からこういった要望や意見もほとんど出ることはありませんので、今では慎ましやかに続けている状態です。今後は別の切り口で活動を広げていこうと考えています。

もうひとつの耐震関係は主に役所の防災行政に対する協力という形が多いのですが、最近ますますウェイトが大きくなっています。当委員会が直接担当しているわけではありませんが、会員の方々に栄地下の住いの窓口で協力して頂いているのもその一貫です。もちろん、行政などに一方通行で勤労奉仕するわけではありませんから、良好なギブテイ関係を保っていきたいと考えています。そして成果は会員の方々に還元し、さらに会員の方々の意見を頂戴して次のステップに活かしていく、という循環発展性のある活動を行いたいと思います。しかし、行政の方々や他の建築団体の方々と協調して物事を進めていくわけですから、どうしても一番歩調の遅いところに合わせ進捗せざるを得ないというジレンマを併せ持っています。中部地区にいととなかなか実感できませんが、この地区は行政のJSCAあるいは構造士に対する信頼度が極めて高い、という特殊性を持っています。この財産をさらに育て、会員の方々のメリットとしてお返しすることも重要な役割である、と考えています。

広報委員会 今年度の活動方針

広報委員長 山崎 俊一

前期に引き続きまして広報委員会をまとめていくことになりました。広報委員会は、年4回発行の広報紙「JSCA中部」を担当する広報誌発行のグループと、中部支部のホームページを運営しているホームページワーキンググループの2つのグループで活動を続けています。

支部広報紙「JSCA中部」は、1985年に発行された「構造懇中部第1号」にその源を持ち、1989年に名称を現在の「JSCA中部」に改め、今回で第64号を迎えました。広報紙の主な掲載内容は、設計例、現場紹介、各委員会活動、講習会・見学会の報告など多岐にわたっており、極力皆様の興味を引く内容を掲載することを心掛けております。また、実際の執筆は、会員の皆様へその都度お願いしており、ボランティア活動の成果そのものであります。時間の少ない中、快く執筆を引き受けていただいた会員の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、機関紙の円滑な運営を計るため、技術交流会及び賛助会員の皆様には、広報協賛のご支援をいただいております。厳しい社会情勢の中、快く広告掲載をお引き受けいただきました、技術交流会・賛助会員の各社の皆様にも、改めまして心より御礼申し上げます。

JSCA中部支部の活性化を目指し立ち上げました支部ホームページも、活動を始めてから6年目を迎えました。その間、メンバーも発足当時より少しずつ入れ替わり、年齢的にも若手を中心に活動しております。昨年度は残念ながら、一時活動が途絶えることがありましたが、今年度は、その分活動を充実し、タイムリーな話題を掲載したホームページを作成したいと考えております。

広報委員会は支部活動の1つの方針である、各地域会員との密度の高い情報交換と、社会に向かって認識を深める広報活動を主眼に日常活動を展開しております。これからも皆様に親しまれる「JSCA中部」の発行、そして、支部ホームページのさらなる充実を目指し、皆様の役に立つ広報委員会でありたいと考えておりますので、ご支援ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

浜松周辺建物見学会

J S C A 静岡支部 漆畑 伸



ねむの木美術館 全景

梅雨入りを予感させるような6月はじめの土曜日、計画部会主催で静岡部会との共催による見学会が行われました。愛知県、静岡県の交流を含んだ見学会も始めてのことながら、見学場所の中に松韻亭「萩庵」との語句。「えっ、これって茶室じゃないの？。たしかJ S C Aの見学会だよ。なにが構造的な見所でもあるのかな〜。」てなことを思いながらも、こういう会には出来る限りは参加する趣旨のもとに4日11時、掛川駅にて名古屋からバスでお越しの計画部会の皆様と合流いたしました。

最初の見学場所はねむの木子供美術館でした。掛川市北部の山あいの谷間に時折聞こえるうぐいすの鳴き声中、静かにたたずむペーパーハニカミム三角格子の建物です。

入館一番「写真は撮ってよろしいでしょうか？」

「あの一、展示の絵はなるべくなら・・・」

「いえいえ、天井です」

「美術館にきて最初に天井を見たり写真を撮るひとはそうはいないね〜」との仲間うちの声。たしかにそうですね。しげしげとペーパーハニカミムをながめながらも、「おや、剪断破壊の前兆が」「座屈しかかっているね〜」などとさすがにJ S C A会員の皆様。

専門家としての観察を終えて壁にかかる絵画に目をむけると予想もしなかったすばらしい世界が広がっていました。建物もさることながら、展示されている作品のすべてがそれを上回るものでした。一見の価値あります。

おいしい釜飯の昼食後、あのサッカーワールドカップが行われたエコパスタジアム・アリーナが二つ目の見学

地でした。静岡部会では、たしか工事期間中に一度見学会をおこなっていたかと思います。ここではエコパスタジアムサポーターというエコパを愛するボランティアによる組織がつくられており、その中の熱狂的サッカーフリークのお兄さん(?)に案内していただきました。フリークだけに試合や選手にまつわるさまざまなエピソードを話され、普通は立ち入れない場所を見たりで予定時刻をはるかにオーバーしてしまいました。

最後の見学地、松韻亭「萩庵」は閉館間際の少ない時間でしたが数寄屋造りの趣を堪能させていただきました。ここでは特にこれとって構造的な特徴があるわけではないのですが、茶室のたたずまいや建築材料の話が主となり、さすがJ S C Aの会員は単なる構造バカではない(失礼！)との思いをさせていただきました。

見学会終了後は懇親会出席者を残して浜松駅にて解散となりました。会の終了後はなんと言っても懇親会との信念を貫く面々と、懇親会のみ出席を果たすメンバーとの和気藹々の楽しい懇親会を過ごしました。身も心もリラックス、リフレッシュの楽しく充実した一日でした。企画・運営の皆様、ご苦労様でした。今後もこのような企画をお願い致します。ありがとうございました。



松韻亭「萩庵」